

# パソコン文字通訳 研究集会 2018 夏 予稿集

2018年8月19日(日) 13:00~16:45

東京都障害者福祉会館 A1・A2

**主催** 特定非営利活動法人 全国文字通訳研究会

**共催** 全国文字通訳研究会 東京支部

**後援** 日本聴覚障害者コンピュータ協会

みみより会

ろう・難聴教育研究会



# プログラム

総合司会:宮田 和実

- 13:00 開会挨拶  
理事長 長谷川 洋
- 13:15 講演「私が受けてきた情報保障」  
戸田市議会議員 佐藤太信 氏
- 14:45 休憩(15分)
- 15:00 報告「テキスト購入者アンケート結果」  
大場 美晴(全国文字通訳研究会)
- 15:35 報告「ログ問題の現状」  
橋本英憲(全国文字通訳研究会)
- 16:00 意見交換  
進行 丸山幸美(全国文字通訳研究会)
- 16:40 全国文字通訳研究会からお知らせ・閉会挨拶  
実行委員長 曾根 博
- 17:15～19:30 懇親会

## 資料目次

講演「私が受けてきた情報保障」佐藤太信氏	1
報告「テキスト購入者アンケート結果」大場美晴	8

# 講演「私が受けてきた情報保障」

戸田市議会議員 佐藤 太信 氏

## 私が受けてきた情報保障

佐藤 太信

1

### 聴覚障害のある議員

#### ▶ 初めての地方議員

・ 2001年 長野県白馬村

桜井 清枝（すみえ）氏

・ 2015年 東京都北区 斉藤里恵氏

兵庫県明石市 家根谷敦子氏

2

## 1. 私の生い立ち

### ▶ 聴力の低下と言葉の習得

- ・ 高熱⇒入院⇒聴力低下
- ・ 言葉の訓練 小6まで

3

## 2. 幼少期から青年期

### ▶ インテグレーション教育

- ・ 授業を受ける時の情報保障
- ・ わかったふりー聴こえてあたりまえ

4

## 2. 幼少期から青年期へ

### ▶ 手話との出会い

- ・ 障害受容とは  
きこえないことを受け入れる  
周囲にきこえないことを伝える
- ・ 障害認識とは  
どのような配慮が必要か相手に伝えられる

5

## 3. 臨床心理士を取得するまで

### ▶ 臨床心理学を学んだ理由

- ・ 社会人経験（10年間）
- ・ 自立できる能力
- ・ 社内の情報保障取得面の困難  
(会議が多く、情報保障が得られない)

6

### 3. 臨床心理士を取得するまで

- ▶ 乳幼児教育相談
  - ・子育て、就学の悩み
- ▶ 金町学園（ろうあ児福祉施設）
  - ・措置と契約児童
- ▶ スクールカウンセラー
  - ・社会に入る時の不安
  - ・家族関係の悩み

7

### ろうあ児施設 金町学園

- ▶ 聴覚障害児が生活する施設
  - ・措置と契約
  - ・コミュニケーション
  - ・ロールモデル

8

### 3. 臨床心理士を取得するまで

- ▶ 大学内の情報保障について
  - ・ノートテイク
  - ・手話通訳
  - ・手話通訳+ノートテイク
  - ・ビデオの文字起こし

9

### 3. 臨床心理士を取得するまで

- ▶ 臨床心理学の難しいところ
    - ・ワークショップ
    - ・ディスカッション（討論）
    - ・カウンセリング実習
    - ・実習（精神病院、児童相談所等）
- ⇒ 職の受け皿が少ない

10

### 4. 海外留学

- ▶ 聴覚障害者海外奨学金事業（日本財団）
  - ・多文化社会
  - ・アイデンティティ  
deaf or difficult of hearing
  - ・店員とのコミュニケーション
  - ・電話リレーサービス

11

### 5. 市議を目指したきっかけ

- ▶ 手話言語法請願運動（2014年）
- ▶ 海外留学体験
- ▶ 当事者から声をあげること
- ▶ 地元を変えたい

⇒ 政治は生活に関係する

12

### みなさんにとって政治とは何か？

- ▶ 市議会議員の任期は？
- ▶ 選挙権は〇歳から？
- ▶ 議会は年に〇回行われる？
- ▶ 住んでいる地域の議員は何人いる？
- ▶ 報酬はどのくらい？

13

### 6. 地方議員の役割

- ▶ 予算案、条例の審議
- ▶ 決算のチェック
- ▶ 行政の執行状況についてチェックする

⇒ 行政の監視役  
行政と住民の架け橋

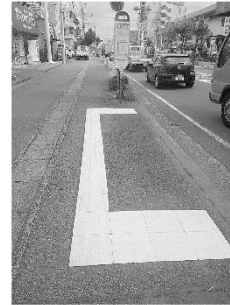
14

どこがおかしい？



15

対応後



16

## 7. 議会内の情報保障

- ▶ 手話通訳者⇒県からの派遣で対応
- ▶ 音声認識システム (ライブトーク)

17

## 8. 議会改革

- ▶ 昨年の6月議会から手話通訳だけでなく、音声認識システムの導入された。
- ⇒ 文字情報が必要な傍聴者にも貸出できるようにしたいがニーズがないのが現状

9月議会からタブレット端末導入予定  
(ペーパーレス化)

18

発言した内容が  
モニターに表示される

○課題

- ・誤変換が多い
- ・数字の間違い

議会内の手話通訳

- ・検討、検証、研究



19

## 9. 議会以外の活動

- ▶ 小中学校の卒業式、入学式、体育祭
  - ▶ 町内会の総会
  - ▶ 子ども育成会の総会
  - ▶ 公民館祭り・夏祭り
  - ▶ 敬老会
  - ▶ 市民体育祭
  - ▶ 成人式
- ⇒ 各地域のイベントに議員は参加している。

20

## 10. 課題と考えること

- ▶ 手話通訳派遣制度について
  - ・手話通訳技術 専門用語にどう対応する
  - ・政治的な派遣はどこまで認められるのか  
議員 or 個人 /社協 ⇒ 市役所

21

## 10. 課題と考えること

- ▶ 本会議、委員会の情報保障
  - ・手話通訳 (県派遣)、音声認識システム (Liveトーク)
- ▶ 上記以外の情報保障
  - ・入学式、卒業式 (専門学校含む)
  - ・部長職歓送迎会、
  - ・会派視察
  - ・町会行事

22

## 10. 課題と考えられること

- ▶ 議会インターネット中継
- ▶ 議会傍聴者に対しての手話通訳派遣の現状  
→ 埼玉県、戸田市では1週間前

23

## 手話は視覚的コミュニケーション

- ▶ 視界を遮られると情報がわからない
- ▶ 100人いれば100通りの話し方がある  
⇒手話ができれば良いという問題ではない

24

## 情報保障に関わる課題

- ・ 来場者のための手話通訳  
来賓としての手話通訳
- ・ 依頼方法がわからない

25

## その他の課題

- ▶ 難聴者、中途失聴者らへの手話習得機会の提供
- ▶ 聴覚障害児（乳幼児含む）  
育児支援、情報の提供
- ・ 新生児聴覚スクリーニング検査
- ・ 小中学校の中における授業支援

26

## 市民医療センター・市役所 振動式コール機

- ▶ あることを知らせる掲示がない  
⇒ 要望する。



27

## 共生社会が目指すもの

- ▶ 当事者に関わることを当事者抜きにして決めてほしくない。
- 例) 手話言語条例  
公共施設の建設  
(バリアフリー設備) など

28

## 11. 議員になって感じたこと

- ▶ 他議員への理解が少しずつ・・・
  - ・ 手話を覚えてくれる
  - ・ 筆談をしてくれる
- ▶ 当事者が社会にでること  
市町村アカデミーなど

29

## 市町村アカデミー (公務員・議員研修施設)



30

## 1 1. 議員になって感じたこと

- ▶ ろう者から立候補したいとの声もある  
⇒ 前から政治に興味がある。  
    だけど方法がわからない。
- ▶ 福祉だけに限らず、幅広い知識、バランス感覚が必要

31

## 市政に興味を持ってもらうために

- ▶ 市長や議員に要望を出す。
- ▶ 議員の市政報告会に顔を出す。
- ▶ パブリックコメントに意見を出す。
- ▶ 議会・委員会に傍聴に行く。
- ▶ 市民公募の会議に申し込む。  
(障害者施策会議など)

⇒ 市の政治に関わる。きっかけを作る。

32

## 市長、議員の目を私たちに向けさせる

- ▶ 地元の政治家と関わる、交流を深める。  
⇒ 課題を提示し考えさせる。意見交換する。
- ▶ 生活に関わる課題と認識させる。

33

## 1 2. これから目指していること

- ▶ 障がいのある人もない人も、分け隔てなく  
住みやすい街
  - ・小中学校における障害教育
  - ・手帳取得できない、障害認識が難しい
- ▶ すべての世代が戸田市に住んで良かったと思えるような街

34

- ▶ 手話言語条例成立後の動向
  - ・どのように変わったか
  - ・アクセシビリティの変化  
(視覚的情報)
  - ・効果の実感
  - ・今後の課題  
    当事者、関係者の声を反映できる仕組み

35

## 手話通訳について

- ・他から見た手話通訳者としての位置づけ  
職業として、ボランティアとして
- ・派遣後の課題検討は情報共有されているか
- ・再度、同じ場所に派遣する場合、前回の反省  
をどのように活かしているか

36

## 手話通訳について

- ・派遣先の課題について  
関係者と話し合われているか  
今後につながるような情報提供が  
できているか

37

## ◎電話リレーサービス



38

## 電話リレーサービスの課題

- ・すべての公共施設内に  
手話通訳者の設置 or タブレット端末の設置  
⇒ 何を優先すべきか？  
行政とコミュニケーションできているか？

39

## 議会後も活動中



40

ご清聴ありがとうございました。

41

以上



# 「パソコン文字通訳(要約筆記)者養成テキスト」

## 購入者アンケート結果報告

報告 大場 美晴 (全国文字通訳研究会)

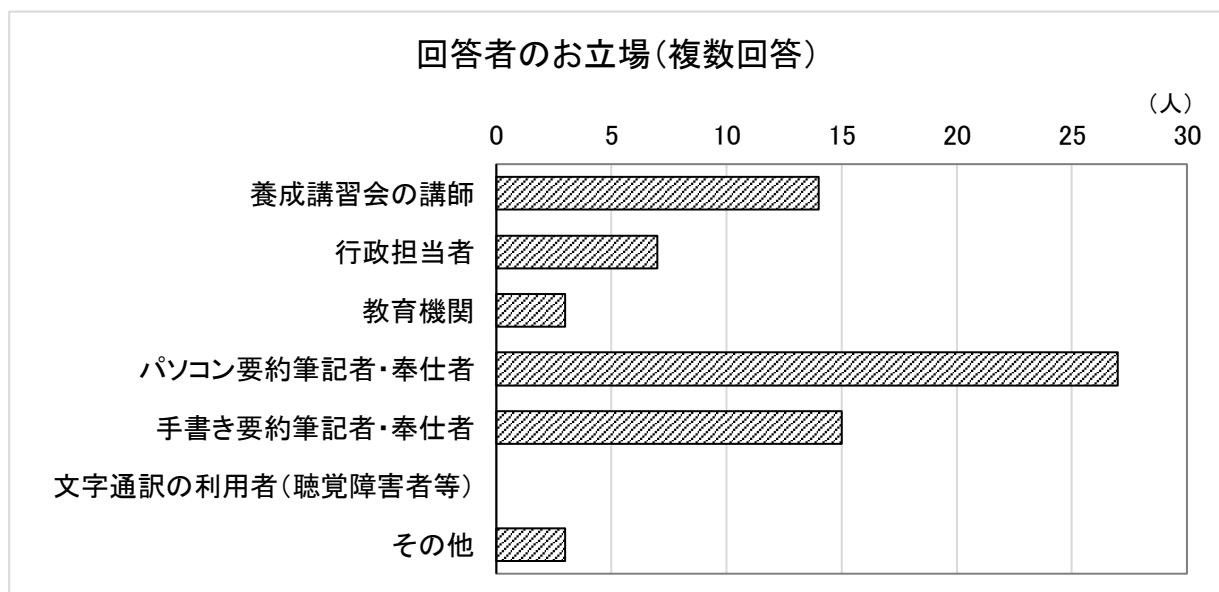
2017年12月末に出版した「パソコン文字通訳(要約筆記)者養成テキスト」は2018年8月までに660冊以上購入していただきました。そこで、購入していただいた方に内容等についてご意見をうかがいましたのでご報告します。

### 【調査概要】

- ・調査名 「パソコン文字通訳(要約筆記)者養成テキスト」購入者アンケート
- ・調査時期 2018年7月～8月
- ・調査対象 「パソコン文字通訳(要約筆記)者養成テキスト」の購入者154人
- ・有効回答数 34人
- ・調査方法 調査票をFAX・メールで送り返信していただいた

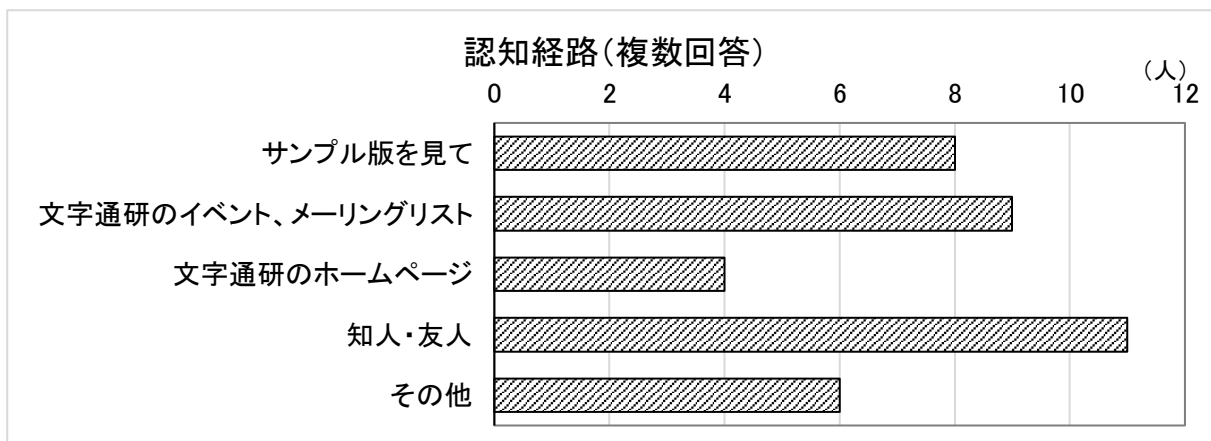
### ●回答して下さった方のお立場

回答して下さった方は下記のようになります。パソコン文字通訳(要約筆記)の入力者の方が多いのが目立ちます。ただし、お一人でメンバー分をまとめて購入して下さった方と自分の分のみを購入して下さった方がいますので、この数はテキストの利用者の比率ではありません。



### ●テキストをどこで知ったか（認知経路）

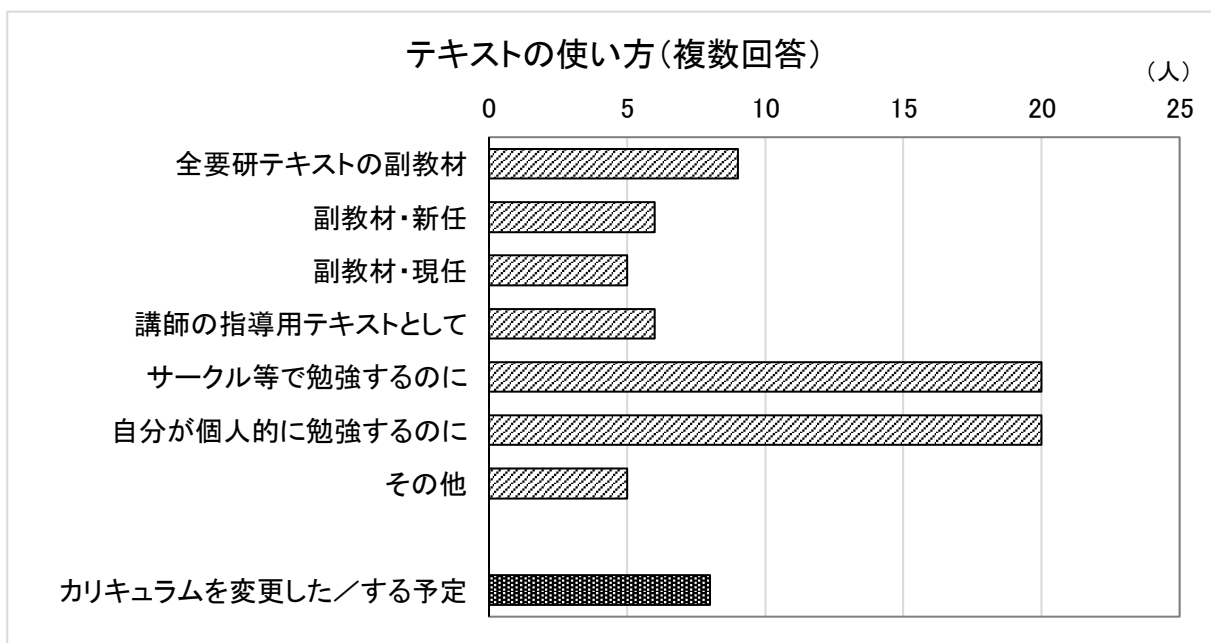
「本書をどこでお知りになりましたか」とお伺いしたところ、下記のようにになりました。出版前に全国に配布したサンプル版や文字通研からのご案内（イベントやメーリングリスト）でお知りになった方も多いのですが、知人・友人から聞いたという方が最も多く、クチコミが広がっていることがわかりました。



### ●テキストの使い方

テキストはさまざまな使われ方を想定して作成しました。実際にどう使ってくださっているのかを伺いました。最も多いのは「サークル等で」「自分で」勉強するという使われ方でした。養成講座の中で全要研テキストの副教材になればという思いがありましたが、そのような使われ方をしてくださっているところが9件ありました。現状を変えることは簡単ではないと思っていましたが、希望を持てる数字でした。

また、テキストをカリキュラムに組み込むべく変更したところは8件でした。回答者の中にはカリキュラムにコミットする立場にない方も多くいることを考えると、悪くない数字だと思います。

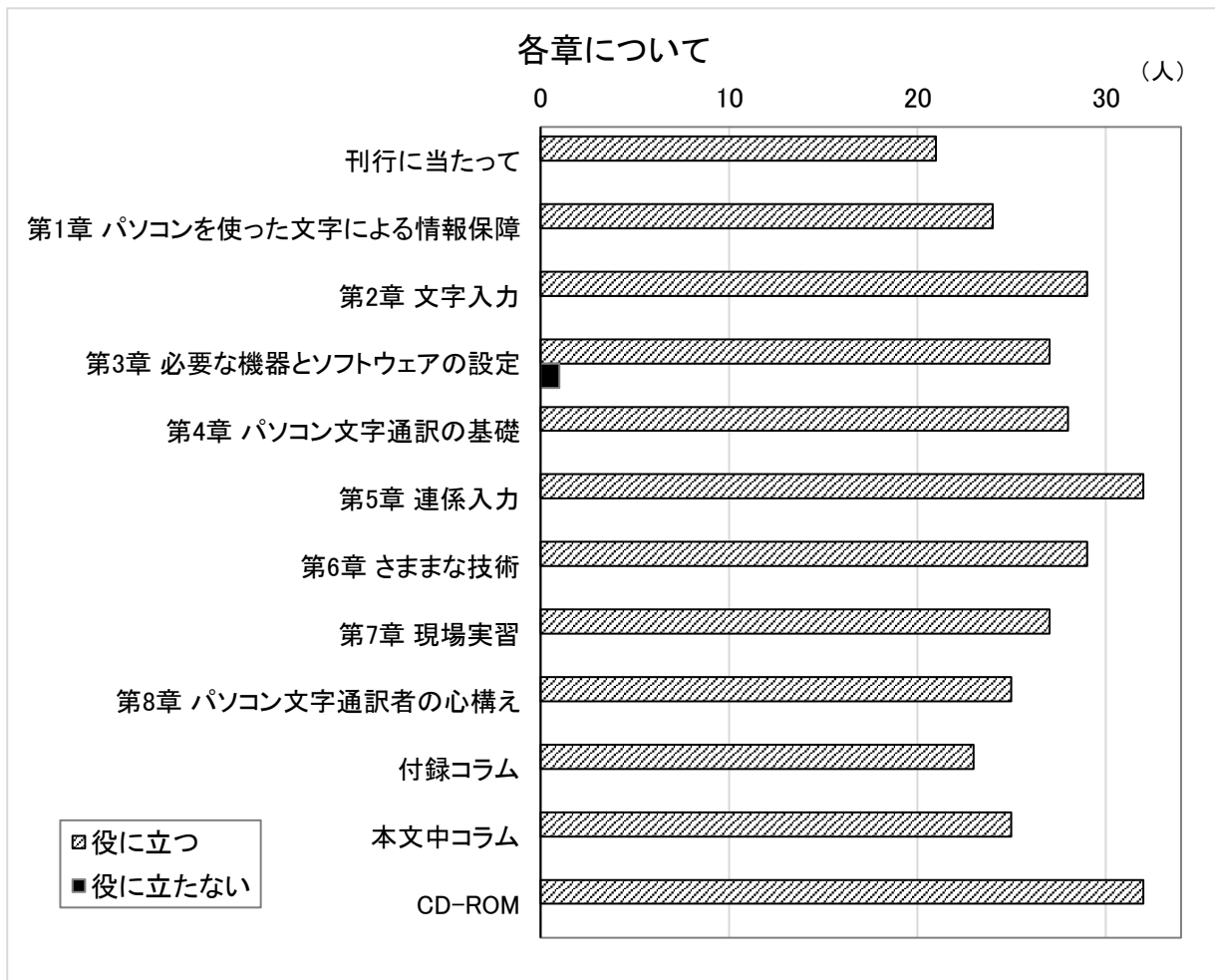


## ●各章の評価

それぞれのコンテンツについて、入力者の養成や自身のスキルアップ等に役に立つと思うかどうかを伺いました。

母数は 34 件ですので、大多数の方が全体にわたって「役に立つ」と評価してくださいました。

特に好評だったのは「第 5 章 関係入力」と動画や音声などを収録した CD-ROM でした。皆さんが最も苦労されているところだったのだなと実感しました。



## ●ご意見・ご要望

最後にテキストに関するご意見やご要望を自由に書いていただきました。

(原文のまま、回答が到着した順に並べています。誤植の指摘などは省いています)

### ■3章について

「役に立たない」というのではなく「物足りない」という感じです。

・OSに関しては「サポートが切れていない(延長サポートが終了していない)OSを選ぶ」という旨の記述もあれば良いと思います。

・IPアドレスの設定に関しては「すでに詳しい人がいる」ことが前提になっていて、テキストだけを見てIPTalk用に設定するには無理があるので、もうちょっと詳しくても良いと思います。

■LAN構築やプロジェクタなどのハード面の説明と、IPTalkなどのソフト面の説明を分けて説明したほうが良いのではないのでしょうか。

また、IPTalkの使い方がいくつかの章に分散して書かれているので「こうしたい時には、どこの設定を変更すればいいんだっけ?」という場合に、探しづらいと思います。

本当に懇切丁寧な説明で、講師にとっても、自学者にとっても分かりやすいテキストです。

かゆいところに手が届くような、そんなふうを感じる箇所がたくさんあります。

講師自身が役に立つテキストです。

要約筆者として数年以上たった者たちで購入し、参考にいたしました。IPTalkについては、使用して数年経っているのですが、ほとんどのことは知っていました。今回一番興味があったのは、「関係入力」の章です。従来、要約筆者の養成時に関係入力については学ばなかったのですが、私どもは普段、関係入力で要約筆記を行っています。そこでこちらの本に興味を持ち、購入いたしました。関係時に必要な考え方について、経験でなんとなく感じていることが文章に表されていて、はっきりと納得がいった気持ちです。読んで良かったです。また、検証方法をいくつか学んではいましたが、この本で「IPCapture」を初めて知り、早速入手しました。自分の入力の様子をあとで客観的に見ることができるので、感激しています。他のソフトを利用した解析はまだ行っていませんが、サークル仲間と今後利用していきたいと思います。役に立つ情報をありがとうございました。

各章ごと詳細に書かれているため、非常に分かりやすいです。本学障がい学生支援制度の新人スタッフ学生の養成、ベテランスタッフ学生のおさらいのどちらにも活用できる内容が沢山ありますので、是非参考にさせていただきたいと思います。

・動画を充実していただくと、さらにありがたい。

・特に、第5章に即した動画があると、理解しやすいと思った。

・できれば、もう1ランク低いレベルのお手本動画(ゆっくり音声→早い音声)があると、まだまだ高速入力できていない受講者にも、可能性を感じてもらえるかもしれない。

・とにかく、第1線の方々の英知が集約しているのがすばらしい!

・筆者陣以外の方々からも追加情報を募集してもよいかも。

○講座で使ってみると、すばらしさは確実に実感できます。お疲れ様でした。

<p>テキストは分かりやすいです。</p> <p>まだ、使い込んでいませんが今までとは違うやり方があることを知りました。</p> <p>CDの音声の名前は内容がわかる表示だと使いやすいです。</p>
<p>パソコン文字通訳に特化して、実践に役立つ情報を分かりやすくまとめてくださり、非常に参考になりました。今後も有効に使用させていただきます。ありがとうございました。</p>
<p>自分の知らなかったことが、いろいろ書かれており通読するだけで勉強になった。早速実践したものもあり、ときどき開いて知識を確認していきたいと思う。またサークル内にも広めて行きたい。</p>
<p>具体的な単語登録まで記載してあり、大変参考になりました。</p> <p>入力について、知識が豊富な方には当たり前のことかもしれませんが、新鮮でした。</p> <p>「全文入力」の考え方は、貴重でありそのための連携の指導や練習は、不可欠だと考えます。</p> <p>ただ、「全文入力」という表現が、適切なかには多少の疑問があります。</p> <p>連携入力がとても苦手で、入力部分が前後したり、読みづらい文章になったりしてしまいます。</p> <p>もし可能であれば今後、skype などを使っての公開練習会があればいいなと思います。</p> <p>これからも、いろいろな御提言・御教示よろしくお願ひいたします。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録筆記者の現任研修用に購入し、まだ使用していないためコメントができません。</li> <li>・年度初めに登録研修の案内の中に、テキストのチラシを同封しました。購入した筆記者からの感想はまだ聞いていません。</li> </ul>
<p>私が所属し、活動している地域では全要研の養成テキストに沿って教えています。主催の難聴者協会、市の福祉局との話し合いにより決まっていることで、テキストを変えたり、加えることは難しいです。「どういう要約筆記を望むか」というテーマで難聴者団体と何度か話し合いも持ちましたが、望むものは個人によって大きく差があり、まとめることは難しい。テキストでも全要研でも聴覚障害者の社会参加と自己決定を目的に掲げています。私たちはこのことを肝に銘じて活動しているつもりです。要約せず、話をすべて入力すること、受信と発信の内容が等価であることは理解できます。入力が可能であり、かつ日本語としておかしくないなら、それで良いと個人的には思います。ただ、付録コラムにあるように、通訳者が連係で 240 文字、機能を利用し 300 文字の入力が可能とあります。これはかなりの高レベルの話だと感じます。実際に養成を担当する者からは、2 人になるから倍ではなく、連係の難しさから文字数は減るのが現状です。表記の統一については、都度必要なものを加えたり、修正して年度初めに共通認識を促しています。でも整文された連係入力は難しい！毎年、新人が加わるため繰り返して陥る現任研修は課題が山積みです。</p> <p>私たち講師会では、ケバをとるだけで話しことばの 70～75%は確保できると確認しており、要約の目安としています。さらにある難聴者が「本を読むように、スーッと胸に落ちる要約筆記を望む」と言った言葉を個人的には目標としています。今まで手話通訳者の倫理綱領に依拠していた私たち要約筆記者ですが、要約筆記者の倫理綱領ができ、立場を明確にすることができます。このテキストで同様に倫理に触れている点も良いと思いました。「文字通研は全文入力」という言葉が 1 人歩きしている向きもあり、想像していたほど養成テキストと違いはないように感じました。今後も参考にさせていただきます。</p>
<p>分かりやすく書いてありました。個人の勉強に役立てたいと思います。</p>

<p>まださらっと見ただけですが、各章が詳細に記述されている印象を受けました。 このテキストで自習し、来年の統一試験合格を目指します。</p>
<p>4冊購入しました。2冊で送料230円と伺っていました。 宅急便の着払いできたので807円でした。2冊ずつに分けて送っていただけたらと思いました。 今年度より、地域で養成講習会がはじまったので、單元ごとに読み進めています。</p>
<p>とてもよくまとめられているテキストだと思います。 使う側として、まだ使いこなせていないので、これからもっと活用していきたいと思います。</p>
<p>自分が受講生として受講していた時のレジュメで何かあったときに読み返してきました。 このような大切なことをまとめてあるテキストが手元にあるといざというときに心強いです。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・サークルではCD-ROMに入っている例文をいくつかやってみました。たくさん入ってうれしい。次は動画の例文とかいいですね。</li> <li>・まだまだ使いこなせているとは言えませんが、来年度から京都市養成講座で活用できないか「強力に」進めたいです。</li> <li>・このテキストを使ったパソコン文字通訳入門講座が全国各地で開催できたらいいですね。</li> <li>・今は、分からないことがあったとき見るといった辞書みたいな使い方をしています。</li> </ul>
<p>手書きが主ですが、手書きにも通じる要約筆記者としての在り方、倫理がきちんと書いてあり、講座の時にも活用させていただいています。 サークルで講師・補助講師を担当する者には皆、購入してもらって、活用できる場所は活用しています。PC通訳に出る会員も全員購入してよく学び、通訳に生かしていくよう例会等で研修をしています。</p>
<p>まだじっくり内容を確認できていません。これから読み込んで今後に生かしたいと思っています。</p>
<p>カリキュラムの変更はありませんが、全要研テキストの不足分を講義で自分なりにやっていたことの再確認と参考にできることが多々ありました。 地元では、全要研テキストを使用することになっていますので副教材的な利用になります。が、技術(パソコンコース)では今までの経験・地元でのやり方など工夫しながら進めています。 というのは、実際の活動時と違うところがあったので。ですが、このテキストでこれまでやっていたことについて確認と確信・自信が持てました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン「文字入力」ではなく「文字通訳」を明確にいただいた。</li> <li>・高齢者では読む速度も落ちる傾向があるので、ログの取得が重要になってくる。</li> <li>・守秘義務は時と場合による。人命、特に児童虐待に関するものは専門職(福祉の)として通報の義務がある。</li> <li>・パソコン文字通訳者がパソコンが使えない場面はどう対応したらよいかの心がまえ、具体例を入れていただくと、もっと良いテキストになったと思う。</li> </ul>

要約筆記は手書きから学びました。自らが難聴者になったときに、はたしてこの文章のまとめ方で納得できるのか、疑問に思いながら続けてきました。

パソコンは、より多くの文字数を表出できるので始めました。難聴者・中失者は私と同じ聞こえる人(聞こえた人)をベースに再構築した文章を見る。ならば、自分が納得できる文を作りたかった。このテキストは私の疑問に全て答えてくれました。ありがとうございます。

とてもわかりやすい内容でした。今まで習ったことが整理されたと思います。ありがとうございました。

具体的で大変役に立っています。ありがとうございます。

音声も速度がいろいろで助かります。文字起こし文があるのもいいです。

希望としては、音声の例文がもっと多くあるといい。動画の部分ももっと長い方がよい。

かゆいところに手の届く、上級通訳者(貴会では普通のPC通訳者だとは思うのですが)を目指すテキストとしても、とても有効であると思いました。

以下、気づいたことや、感想です。

P.6「余裕は絶対条件」の気持ちは大変よくわかりますが、「余裕はなかったけどもやれたね」というのを認めてもらえるのであれば、「とても重要」程度でもよいのではないかと、思いました。P.104でパートナーの入力を見られるのも余裕から、ということのようなので、この意味で連係入力時には絶対条件ではあるのですが。

P.79「整文」と「要約」をズバッとスッキリ定義していると思いますが、何らかの+αの記述があるとよいように思いました。

というのは、要約は原文の意味をできるだけ損なわずにより短く加工することであり、加工された文には読みやすいことが暗に含まれていると思いますので、パソコン要約筆記での要約は、

「要約 = 整文 + より短く加工すること」

であり、要約の目的として、「話の速度に追いつくため」に限定されず、「利用者のニーズに合わせるため」なども含まれると思いましたので。

P.95 第3パラグラフで、「[Enter]キーを押すまでは、読み手には見えていない」や、P.101④「読めるリズムで文字を表出」は、現状では入力者の技能に負うところが大きいですが、今後のソフトの機能進化で、ソフトのほうで対応していけるのではないかと期待しています。

現在でも、表示用PCの8人モニターに、入力者が確定したら確定文字を見せられる機能ができています(確定方法により見えなかったり、見える箇所が8人モニターに限定されていたり、瞬時に見えてしまうなど、今後の進化に期待したい点がありますが)、私は超期待しています。

P.139など、挿入句の活かし方として、文頭に持ってくればいいのか、と改めて勉強になりましたが、その際、「○○が、」より「○○であり、」などのような順接的にしておくほうが、オールマイティーのような気がしました。

以上

## パソコン文字通訳 研究集会 2018 夏

実行委員長 曾根 博

主催 特定非営利活動法人 全国文字通訳研究会

ホームページ <http://mojitsuken.sakura.ne.jp/wp/>

メール [info@mojitsuken.sakura.ne.jp](mailto:info@mojitsuken.sakura.ne.jp)

FAX 020-4624-1608

※私たちが求める情報保障と「要約筆記」という言葉の持つニュアンスとの間には隔たりがあるため、私たちはあえて「パソコン要約筆記」ではなく「パソコン文字通訳」という言葉を使っています。